

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277100588		
法人名	社会福祉法人慶成会		
事業所名	グループホーム花みずき(葵館)		
所在地	静岡県浜松市西区大山町2882番地		
自己評価作成日	平成27年1月27日	評価結果市町村受理日	平成27年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kami=true&JigyosyoCd=2277100588-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年2月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれた広い敷地にゆったりと配置された3棟の平屋造りの建物が、「グループホーム花みずき」です。入居された方が自由にのびのびと暮らしていただけるように、健康と安全に配慮した援助をご提供させていただいています。また、入居されている方と職員が共に生活を楽しみ、暖かい雰囲気大切にしています。入居されている方にとっても、そのご家族にとっても、のんびりと寛げる”別荘”という感じで利用していただけることを目指しています。更に、花みずきの南側に作った畑を利用して農作業を通じた地域交流を行うなど、立地環境の利点を活かして、地域社会との繋がりを大切にしたい”ホッとできる”施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東名浜松西ICから10分、静かな里山に佇む宿のように3棟が独立して建つ事業所です。巡る季節を知らせる山茶花、紅梅、ハナミズキといった花々に囲まれて今までの暮らしの延長線上にあり、訪れる人にもやすらぎが灯ります。本年はセンター方式を丁寧に学び、ケアプラン充実に向けシートの見直しを図りました。担当職員がプラン作成に直接携わり、着実な人材育成が進められています。のどかな光景の中にも運営への意識は高く、ユニット単位の予算編成で職員の声を活かしての取組みは、来年度からはさらに発展し自ら立てた予算での活動となり、まさに”全員参加経営、”が始動します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「やさしく、ゆったり、よりそって」という法人の理念の下に、グループホームの使命が果たせる様に経営方針を決め、管理者と職員が共通認識に立って実践につなげていけるように取り組んでいる。	法人クレドを経営会議、ケア会議に読み合わせています。3棟のユニットがそれぞれの運営に尽力し、職員主導でなく利用者個々の想いを汲み取る働きかけができていることに浸透と反映を感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の保育園、中学校、老人クラブとの定期的な交流の機会はあるが、日常的な交流は出来ていない。法人内の他の事業所とは日常的に連携を取り、利用者の交流に繋がっている。	民家の少ない立地条件ながら、事業所の畑を通じて老人クラブ、保育園との交流が進められています。植えつけのアドバイスや草取り、認知症講話で双方が往来し、芋堀りには年長児を招いての歌の披露と肩たたきに利用者の笑顔も満開に綻ぶ一日となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の湖東中学校が行う職場体験学習で来られた生徒に対して、認知症の人の理解や支援の方法について学んで頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には近隣のグループホーム管理者やクリストファー大学の先生にも参加して頂き、年間計画を立てて定期的に開催している。また、利用者の日常の様子を毎回スライド上映で伝え、話し合いを行っている。	定期開催し、同業者や専門分野有識者も同席する中、実地指導の指摘事項についての情報交換や、各事業所が抱える課題を協議する場としてネットワークづくりやサービスの質を向上させていく会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の委員として区役所の職員と介護相談員に参加していただき連携を取っている。また、浜松市介護サービス事業者連絡協議会の理事として、浜松市との連携を取っている。	更新申請や手続きに足を運ぶほか、市事業者連絡協議会の公的役務拜命もあり、行政との連絡を密に図っています。法人全体での研修会参加や出前講座の活用、介護相談員は毎月訪問があり、利用者の話に耳を傾けてもらえています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除に関するマニュアルを置き、研修への参加の機会を作り、職員への教育を行っている。また、ケア会議等を通して身体拘束が行われないように注意してケアに取り組んでいる。	入職時にオリエンテーションで身体拘束、虐待について説明しています。現在拘束が必要な利用者もありません。玄関チャイムの設置はありますが鍵のない自由な暮らしを守り、外出したい気持ちには寄り添うよう努め、余裕をもって接することができる時間を捻出しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新規採用職員へのオリエンテーションの中で「高齢者虐待防止法」についての教育を毎回行っている。また、法人内外の研修に参加することを通して継続的に学ぶ機会を持ち、日々のケアの中で防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での職員研修に参加することにより、権利擁護に関して学ぶ機会を作っている。また、既に成年後見制度を利用している利用者が複数いるため、日々の支援を通して学びを得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約に関する説明を十分に行い、途中においても質問には丁寧に答えている。また、制度等の内容が変わった時には、年2回の家族会等を通して十分に説明し納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回行う家族会では、毎回ご意見やご要望を聞き運営に反映させている。また、運営推進会議へ委員として家族代表に参加していただいたり、家族面談等の場を使って積極的にご意見を聞くように努めている。	運営推進会議には輪番で出席を得られています。「ちょっと出て青空を眺められたら」との提案から、歩行に不安な人への配慮として中庭に手すりの取付けを計画しています。家族会は初詣と七夕行事と一緒に過ごす日と報告・懇談会とに分け、年4回おこなわれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議やマネジメント会議を通して職員の意見や提案を聞くと共に、職員個別面談や意向調査等を通して積極的に意見を聞く機会を作っている。また、法人内ではアメンバー経営により職員の意見が法人経営に反映されている。	ケア会議での進言をマネジメント会議において管理者、リーダーが総括しています。半期ごとの個人面談、トップに直接届くダイレクトアンケートもあります。予算編成をユニット単位として、職員の要望が活かされ目指すケアに投資できる仕組みがあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課の評価と個別面談を行い、更に年1回職員の意向調査を行うことにより、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体研修として毎月1回職員研修を行うと共に、事業所毎では積極的に法人外の研修参加の機会を作っている。また、法人として職員のキャリアアップ研修を毎年実施したり、介護福祉士取得のための支援にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が、浜松市介護サービス事業者連絡協議会と県グループホーム連絡協議会の理事を務めていることもあり、同業者と交流する機会を積極的に企画し、職員に参加を促している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前面接に伺い、本人に会って話をし不安な事や困っている事などを聴くようにしている。入所後は事前情報を基に、本人の様子や言動に気を配り、声かけをしながら関係作りにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の相談及び入所面接や入所手続き時などに、家族の要望や不安に思っていること等をしっかりと聴き信頼関係に努めている。また、入所後も近況報告や家族面談を通して信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内事業所が連携を取りながら総合的に地域のニーズに応える体制をとっているため、相談の段階でその時に必要なサービスの利用が出来るように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に洗濯物を畳んだり掃除をしたりしている。利用者と一緒に食事をしながら世間話をして利用者の日常に寄り添う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方の家族にも日々の様子が伝えられるように写真を掲載したお便りを作成し郵送している。又、定期的な面談により家族の意向を聴き本人の思いを伝え家族と本人を結ぶよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他館や他事業所に入居されている親族と定期的に面会出来るように協力体制をとっている。又、誕生日レクリエーション等で本人のなじみの場所に行くことが出来る機会を作っている。	入居時には「別荘のように利用してほしい」と説明し、外出外泊が自由であることを伝えていますが、本人が会いたい人に会える、行きたい所に行く支援を旨として思い出深い浜名湖遊覧船や「住んでいた処や家がどうなっているか見たい」といった願いを叶えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流を深めるためのレクリエーション(外出や手作りご飯等)を行っている。又、利用者同士の関係を考慮した座席になるよう席替えを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が法人内の他事業所に異動になった場合に面会に出向いたり情報交換を行っている。法人買いの事業所に移られた場合は継続的な支援は難しいが家族や移動先の相談や要望に合わせて対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者の支援の中で利用者の思いを聴きだしている。また、自宅でどのような暮らしをしていたのかを聴き、把握に努めている。困難な場合は家族に話を聴き情報を集めている。	センター方式シートをツールとして情報収集し、家族にも書き込みを協力してもらっています。自分の意思が伝えられる人が多い中、感情の起伏や状態把握に役立てています。困難な場合には言葉や行動の解釈を家族にも委ねて検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、知人の話の中でこれまでどのような暮らしを送ってこられたのかを聴き把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や身体状態を記録し、申し送りや日誌を活用し、職員間で情報交換を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で意見を出し合い看護師と相談しながら介護計画を作成している。又、ケアプラン面談の際には、家族の意向を確認し次のプランに活かしている。	ケアマネージャー指導の下担当職員がケアプランを作成し、これに基づき全職員で話合っています。シートをA4サイズからA3に拡大し、第2表には新たに評価欄を設けてモニタリングシートとADLチェック表を付加し、PDCAサイクルを意識づけています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録を記入する事が出来ている。また、その記録をもとにケア会議で話し合いが出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望に応じてフラワーアレンジメント教室へ参加して頂いている。受診の際、家族が付き添いが出来ない場合は職員が付き添っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣地域の老人会、保育園児と一緒に畑で芋ほりや焼き芋をして交流を深めている。又、利用者と一緒に近所のスーパーへ買い物をしたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人及び家族が希望するかかりつけ医がある場合、入居後も継続してその医療が受けられる様に支援している。又、施設と協力体制にある医師からの医療が受けられる様に支援している。	月2回任診があり、夜間でも駆けつけてもらえるため全員が協力医に変更しています。精神状態の変化を記録した24時間生活変化シートから職員が同行のうえ主治医の意見を直接聞くこともあります。家族に受診の付き添いをお願いする際にはバイタルや生活記録を書面で手渡しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の利用者への支援の中で気づいた事を看護師へ報告、相談をしている。又、協力体制にある医師からの指示を仰ぎ適切な医療が受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合には適切な医療がうけられる様に支援する。医療機関への情報提供も行っている。又、利用者や家族が安心できるよう出来るだけ面会に行くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、その都度、家族と話し合いをしその後の支援につなげている。又、実際に終末期を迎えているターミナルケアマニュアルを作成し、職員、家族、医師と支援を共有できている。	事業所で出来ることに限界はありますが、看護師は24時間オンコール体制にあり医師からの説明をもってターミナルケアに取り組んでいます。一人介助での立位や一般浴での入浴が困難になった場合は早い段階で相談の機会をもっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修により急変時のための対応や心肺蘇生法やAED研修を行っている。又、看護師に指導を仰いだり、経験のある職員が伝えたりしている。しかし、全員に定期的には行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の火災を想定した避難訓練を年3回実施すると共に、風水害対応マニュアルを作成し職員教育を行っている。また、法人で行う災害対策の研修に参加しているが、地域との協力体制までは築けていない。	年に3回、各館交代で夜間想定として実施し、本年は行政指導に従って風水害対応マニュアルを備えました。火災においては火元を乾燥機に限定していましたが、消防署職員のアドバイスからコンセントからの出火も加味しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格に配慮した声かけや支援の仕方をするように努めている。又、更衣や排泄介助の際はその方の羞恥心や自尊心に気をつけた対応をしている。	本人がつかなくなるような話は情報としてあらかじめ了解して接し、生活背景や気持ちを重視した声かけを促しています。「排泄の誘いは耳元で小声で」「失敗には集団から離れた場所で」「無理強いを尊厳を傷つける」として気になることは職員同士注意し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が職員に希望や思いを素直に伝えられるように関係を築いている。又、洋服選びなどご本人が決められる所は決めて頂く様に声かけしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事は必ず決まった時間に出すのではなく、その方の生活リズムにあった時間で提供するように工夫している。疲れて傾眠されている方には臥床を促すようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回の理美容の出張サービスを利用する事が出来、毛染め、カット、パーマを本人の希望で利用して頂いている。また、ご自分で洗顔出来ない方にはおしぼりを使用し拭いて頂くように援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いや盛り付け台拭き等、利用者と一緒に準備片付けをしている。又、月二回程度の手作りご飯を実施し利用者の食べたいものを一緒に作る機会を設けている。	ご飯はユニットで炊き、副食はセントラルキッチンからの調理品を盛り付けています。普通食、ソフト食、ミキサー食と個々に合った形態で提供し行事食やおやつを手作りしています。フードコートや『うなぎパイファクトリー』など外食も盛んです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量、水分量をチェックし十分な摂取が出来ていない方に対し嗜好品や補助食、また家族に外食等をお願いし栄養不足にならないように配慮している。また、残存機能が低下してきた方には自助具をしようしたり、食事形態の変更を検討したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの援助を行っている。ご自分で出来る方には義歯ブラシや歯間ブラシを使用したり、出来ない方にはスポンジブラシで介助している。月一回、歯科衛生士による衛生指導を行っている。必要な方には治療も行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンや排泄状況を把握する為、排泄チェック表をつけている。又、その記録をもとにケア会議等で話し合い、その方にあったパット類を使用するように見直しをしている。	寝たままの援助を良しとせず、今の力をできるだけ長く維持できる方法を考えトイレでの排泄としています。紙パンツが蒸れることもあって皮膚疾患が気になる人には布パンツとパッドで対応しています。夜間は吸収容量の多いパッドを使用し安眠優先とする人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜ジュースの提供や週二回の体操を行い薬に頼らない排泄が出来るように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者に対し週二回～三回の入浴して頂く様に支援している。又、その日の気分や身体状況に合わせて日にちをずらすなど工夫している。	2日に一度を基本として、気分や体調に沿っておこなっています。夜間浴や「毎日がいい」「一番風呂に入りたい」に応え、時には気の合う職員が担当して、時間をかけて丁寧に、少しでも気持ちよい入浴となるよう趣向を凝らしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	終身時間は決まっておらずその方のペースに合わせて就寝していただける様に支援している。又、介助を要する方には職員が申し送りをする事により日中も含めた上で終身介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月二回の医師による往診に職員が付き添い医師の診断を把握する様に努めている。又、処方された薬の服薬カードを見て用法等を理解するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせて役割を見つけ活躍できるように環境を整えている。また、利用者が気分が乗らない時には無理に勧めないように気をつけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に応えることは難しいが外食やドライブ、買い物等を、利用者と一緒に外出し気分転換を図っている。又、初詣やお祭りなどの行事には家族の協力を得て外出支援を行っている。	社会との繋がりとして喫茶店や買い物も続いています。年末年始に限らず、親戚が集まる時には家族に協力をお願いし、誕生日には「その人の願いを叶える企画、が定着しています。細江神社や浜名湖一周ドライブも喜ばれました。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方にはお金を所持していただいている。しかし、殆どの方は自己管理が難しく、お金を使用する機会がない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて自室に電話回線を利用することが出来、実際に自室に電話を置き使用されている方もいる。その他のかたにも家族に年賀状や暑中見舞いを送るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が快適に過ごせるように室内温度を調節したり夜間は必要以上の明かりをつけない様にするなど工夫している。また、リビングには季節感のあるものを掲示するようにしている。	ほっとできるコーナー作りとして至る所にベンチが置かれています。玄関に挿した節分行事の柵や、毎朝決まった時間にそれぞれがモップを手で清掃に励む姿は穏やかな暮らしが感じられます。野菜苗の植え付けを待つばかりの大きなプランターは共通の楽しみです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファやテレビ本棚を設置しつるげるように配慮している。又、廊下にベンチを設置し気の合う利用者同士でお話出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が自宅で使っていた使い慣れた家具を置いて頂き、アルバム写真や室内に飾る装飾品等を置いて頂く事で自宅に近いような居住空間を作るように努めている。又、本人がレクリエーションで作成した物などを飾っている。	アレンジフラワーの作品を飾ったり、愛読書を置くスペースや嫁入り道具の筆筒に囲まれた居室を視認しました。何も置かない方がいいとの人もあり、転倒を防ぐレイアウトと生活行為ができる動線を合わせて確保しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口に名札と顔写真を表示し、また居室ごとに色分けをし、本人が自室を認識しやすいように工夫している。廊下、トイレ、お風呂場に手すりを設置し玄関には靴を履き替える為のベンチを設置している。居間の座敷は一段高くなっており登るには見守りが必要。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277100588		
法人名	社会福祉法人慶成会		
事業所名	グループホーム花みずき(幸館)		
所在地	静岡県浜松市西区大山町2882番地		
自己評価作成日	平成27年1月27日	評価結果市町村受理日	平成27年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=227

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年2月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれた広い敷地にゆったりと配置された3棟の平屋造りの建物が、「グループホーム花みずき」です。入居された方が自由にのびのびと暮らしていただけるように、健康と安全に配慮した援助をご提供させていただいています。また、入居されている方と職員が共に生活を楽しみ、暖かい雰囲気大切にしています。入居されている方にとって、そのご家族にとっても、のんびりと寛げる”別荘”という感じで利用していただけることを目指しています。更に、花みずきの南側に作った畑を利用して農作業を通じた地域交流を行うなど、立地環境の利点を活かして、地域社会との繋がりを大切にしたい”ホッとできる”施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東名浜松西ICから10分、静かな里山に佇む宿のように3棟が独立して建つ事業所です。巡る季節を知らせる山茶花、紅梅、ハナミズキといった花々に囲まれて今までの暮らしの延長線上にあり、訪れる人にもやすらぎが灯ります。本年はセンター方式を丁寧に学び、ケアプラン充実に向けシートの見直しを図りました。担当職員がプラン作成に直接携わり、着実な人材育成が進められています。のどかな光景の中にも運営への意識は高く、ユニット単位の予算編成で職員の声を活かしての取組みは、来年度からはさらに発展し自ら立てた予算での活動となり、まさに”全員参加経営、”が始動します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「やさしく、ゆったり、よりそって」という法人の理念の下に、グループホームの使命が果たせる様に経営方針を決め、管理者と職員が共通認識に立って実践につなげていけるように取り組んでいる。	法人クレドを経営会議、ケア会議に読み合わせています。3棟のユニットがそれぞれの運営に尽力し、職員主導でなく利用者個々の想いを汲み取る働きかけができていることに浸透と反映を感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園、中学校、老人クラブとの定期的な交流の機会はあるが、日常的な交流は出来ていない。法人内の他の事業所とは日常的に連携を取り、利用者の交流に繋がっている。	民家の少ない立地条件ながら、事業所の畑を通じて老人クラブ、保育園との交流が進められています。植えつけのアドバイスや草取り、認知症講話で双方が往来し、芋堀りには年長児を招いての歌の披露と肩たたきに利用者の笑顔も満開に綻ぶ一日となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の湖東中学校が行う職場体験学習で来られた生徒に対して、認知症の人の理解や支援の方法について学んで頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には近隣のグループホーム管理者やクリストファー大学の先生にも参加して頂き、年間計画を立てて定期的に開催している。また、利用者の日常の様子を毎回スライド上映で伝え、話し合いを行っている。	定期開催し、同業者や専門分野有識者も同席する中、実地指導の指摘事項についての情報交換や、各事業所が抱える課題を協議する場としてネットワークづくりやサービスの質を向上させていく会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の委員として区役所の職員と介護相談員に参加していただき連携を取っている。また、浜松市介護サービス事業者連絡協議会の理事として、浜松市との連携を取っている。	定期開催し、同業者や専門分野有識者も同席する中、実地指導の指摘事項についての情報交換や、各事業所が抱える課題を協議する場としてネットワークづくりやサービスの質を向上させていく会議となっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除に関するマニュアルを置き、研修への参加の機会を作り、職員への教育を行っている。また、ケア会議等を通して身体拘束が行われないように注意してケアに取り組んでいる。	入職時にオリエンテーションで身体拘束、虐待について説明しています。現在拘束が必要な利用者もありません。玄関チャイムの設置はありますが鍵のない自由な暮らしを守り、外出したい気持ちには寄り添うよう努め、余裕をもって接することができる時間を捻出しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新規採用職員へのオリエンテーションの中で「高齢者虐待防止法」についての教育を毎回行っている。また、法人内外の研修に参加することを通して継続的に学ぶ機会を持ち、日々のケアの中で防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での職員研修に参加することにより、権利擁護に関して学ぶ機会を作っている。また、既に成年後見制度を利用している利用者が複数いるため、日々の支援を通して学びを得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約に関する説明を十分に行い、途中においても質問には丁寧に答えている。また、制度等の内容が変わった時には、年2回の家族会等を通して十分に説明し納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回行う家族会では、毎回ご意見やご要望を聞き運営に反映させている。また、運営推進会議へ委員として家族代表に参加していただいたり、家族面談等の場を使って積極的にご意見を聞くように努めている。	運営推進会議には輪番で出席を得られています。「ちょっと出て青空を眺められたら」との提案から、歩行に不安な人への配慮として中庭に手すりの取付けを計画しています。家族会は初詣と七夕行事と一緒に過ごす日と報告・懇談会とに分け、年4回おこなわれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議やマネジメント会議を通して職員の意見や提案を聞くと共に、職員個別面談や意向調査等を通して積極的に意見を聞く機会を作っている。また、法人内ではアメンバー経営により職員の意見が法人経営に反映されている。	ケア会議での進言をマネジメント会議において管理者、リーダーが総括しています。半期ごとの個人面談、トップに直接届くダイレクトアンケートもあります。予算編成をユニット単位として、職員の要望が活かされ目指すケアに投資できる仕組みがあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課の評価と個別面談を行い、更に年1回職員の意向調査を行うことにより、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体研修として毎月1回職員研修を行うと共に、事業所毎では積極的に法人外の研修参加の機会を作っている。また、法人として職員のキャリアアップ研修を毎年実施したり、介護福祉士取得のための支援にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が、浜松市介護サービス事業者連絡協議会と県グループホーム連絡協議会の理事を務めていることもあり、同業者と交流する機会を積極的に企画し、職員に参加を促している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ず面接を行い、本人の生活の様子を見させて頂いている。その段階で直接本人と話をすることで要望を確認し、入所後の生活が安心したものとなるよう支援に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接にご家族様にも可能な限り立ち会って頂き、要望や入所前の生活で不安だった事、困っていた事などをうかがうようにしている。立ち会えない場合であっても、来館時にお話をうかがうようにし、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	趣味活動やリハビリ等、本人と家族の要望に合わせて移動図書・訪問リハビリ等のサービス利用も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者と一緒に洗濯・掃除・料理等を行ったり、一緒に歌をうたったりと、暮らしを共にする者同士の関係をきづいている。家事等行って頂いた後は必ずお礼を伝え、必要とされている存在だと感じて頂けるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には最近の生活や健康の状況報告を行い、必要に応じて電話連絡をする等、ご家族様が相談しやすい環境づくりを心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・外泊等を自由にして頂き、ご家族様や知人が心おきなく来館できるよう努めている。家族会ではキーパーソン以外の家族・知人に参加して頂いたり、関係が途切れないよう支援に努めている。	近隣に暮らしていた友人が自宅での生活と同じように遊びに訪れ、花みずきの居間では職員も交えて昔話で盛り上がります。また、年4回の家族会のうち2回は行事を愉しむとして七夕の短冊に祈念したり、初詣にでかけており、友人も参加しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや家事等を通し、利用者が集まったり、協力し合える環境づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の施設へ異動した際には面会へ出向き、経過を見守るよう努めている。また、ご家族様から相談があった場合もその都度対応し、必要であれば法人外の施設へ連絡をとる等、フォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションの中で、希望や意向の把握に努めている。困難な場合であっても本人の立場に立ち、ご家族様と相談しながら随時検討している。把握した希望等は必ず職員間で情報交換し、共有している。	センター方式シートをツールとして情報収集し、家族にも書き込みを協力してもらっています。自分の意思が伝えられる人が多い中、感情の起伏や状態把握に役立てています。困難な場合には言葉や行動の解釈を家族にも委ねて検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前面談、センター方式の活用、ご家族様への聞き取りを行ない、生活歴や馴染みの暮らしや生活環境の把握に努めている。また、入所前の段階で利用中のディサービスへ出向いたり、担当ケアマネ等から情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常のケア記録、職員間の申し送りや情報交換により、常に現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、職員全員で意見を出し合い、多面的かつ本人の意に沿った内容となるよう努めている。また、ご家族様が来館した際におっしゃった意見や要望を把握し、その後のケアに反映させている。	ケアマネージャー指導の下担当職員がケアプランを作成し、これに基づき全職員で話合っています。シートをA4サイズからA3に拡大し、第2表には新たに評価欄を設けてモニタリングシートとADLチェック表を付加し、PDCAサイクルを意識づけています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を記入し、気付いたことや重要な内容等は、職員間で情報共有しやすいよう個別で記録をファイリングしている。必要に応じた対応を随時確認し合い、実践・ケアの見直しに取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々利用者の状況に合わせたニーズを把握するよう努めている。また、ご家族様に相談したり、協力を得るなどしながら柔軟な対応に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や外出を計画したり、ご家族様との外出や外泊を応援したりしている。また、法人内の施設で地域の施設団体と協力して夏祭りを開催し参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族様が希望するかかりつけ医がある場合は、入所後も継続してその医療を受けられるよう支援している。特にない場合は施設と協力関係にある医師からの医療支援を受けられるようにしている。	月2回往診があり、夜間でも駆けつけてもらえるため全員が協力医に変更しています。その他眼科や泌尿器科は、以前からの通い慣れた病院で受診してもらっています。家族に付き添いをお願いする際にはバイタルや生活記録を書面で手渡しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連絡や相談を密にとり、必要に応じて受診したり、協力医へ連絡・指示を仰ぐ等、適切な対応がとれるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合には、本人が安心できるよう可能な限り面会へ訪れ、医療関係者と情報交換を行ない、早期退院へ向けて相談するように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族様には延命の希望について書面で確認をとるようにしている。入所後状態が変化した際には、ご家族様・協力医も交えた話し合いの場を設け、事業所内で出来る事等を十分に説明した上で方針を決め、共有するよう努めている。	事業所で出来ることに限界はありますが、看護師は24時間オンコール体制にあり医師からの説明をもってターミナルケアに取り組んでいます。一人介助での立位や一般浴での入浴が困難になった場合は早い段階で相談の機会をもっていきます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修で心肺蘇生等の講習を行ったり、看護師から指導を受けている。また、連絡簿や医療情報ファイルを作成し、速やかに対応できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の火災を想定した避難訓練を年3回実施すると共に、風水害対応マニュアルを作成し職員教育を行っている。また、法人で行う災害対策の研修に参加しているが、地域との協力体制までは築けていない。	年に3回、各館交代で夜間想定として実施し、本年は行政指導に従って風水害対応マニュアルを備えました。火災においては火元を乾燥機に限定していましたが、消防署職員のアドバイスからコンセントからの出火も加味しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や生活歴を理解し、言葉かけや対応に十分注意している。また、何かして下さった際には必ずお礼を伝えるよう心掛けている。	本人がつかくなるような話は情報としてあらかじめ了解して接し、生活背景や気持ちを重視した声かけを促しています。「排泄の誘いは耳元で小声で」「失敗には集団から離れた場所で」「無理強いや尊厳を傷つける」として気になることは職員同士注意し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から、本人の思いや希望を表現しやすいよう話を傾聴するよう努めている。また、認知症が進行した方には選択肢を出す等、表現しやすい声かけや対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション等、入居者個々のレベルや嗜好に合わせて提供しており、一人ひとりのペースで取り組むことが出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の理美容出張サービスでは、利用する方の好みを伝えられるよう支援している。また、本人・ご家族様の希望で日常的にお化粧して頂いている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれ一人ひとりに合ったかたちで食事の準備や片付けに参加して頂いている。手作りご飯の機会を設け、調理や盛りつけ等も通して食事を楽しめるよう努めている。	ご飯はユニットで焚いて、副食はセントラルキッチンからの調理品を盛り付けるとの方式を普段はとっていますが、時節行事やおやつは手作りしています。週に一度の調理レクで担当職員がリクエストに応じています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士、月1回の給食会議で内容を検討し、バランスの良い食事を提供している。また、一人ひとりの体調や状態に合わせて、栄養補助食品を用意したり、食べやすい食事形態にする等している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた口腔ケアの声かけ・支援を行なっている。月1回歯科衛生士に来館して頂き、口腔内のチェックやブラッシング指導を受けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄チェック表を記入し、排泄パターンの把握やトイレサインを把握に努め、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。また、パッド等も本人の尿量や状態に合わせた物を選択している。	寝たままの援助を良しとせず、今の力をできるだけ長く維持できる方法を考えトイレでの排泄としています。紙パンツが蒸れることもあって皮膚疾患が気になる人には布パンツとパッドで対応しています。夜間は吸収容量の多いパッドを使用し安眠優先とする人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から水分量や排泄の確認を行い、トイレ時の腹部マッサージや運動の促し等、できる限り自然排便ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者全員に週2~3回入浴できるよう支援している。夕方から就寝前に入浴を行ない、夜間浴に取り組んでいる。体調や気分に応じて入浴日を変更し、できる限り希望に沿えるよう努めている。	2日に一度を基本として、気分や体調に沿っておこなっています。夜間浴や「毎日がいい」「一番風呂に入りたい」に応え、時間をかけて丁寧に、少しでも気持ちよい入浴となるよう趣向を凝らしています。また芳香な浴剤を使用し、時には柚子湯も楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が就寝したい時間に入床して頂けるよう、介助を要する方も様子を見て就寝介助している。居室の温度や明るさ等、本人が気持ちよく眠れるよう調整し、夜間2時間おきに見回り、安心して休めるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師往診時には看護師・薬剤師・職員が立ち会い、医師からの指示を職員全員に伝えている。処方内容を変更した際には経過観察し記録を取り、随時看護師・医師に報告・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせて役割を見つけ、活躍できる環境を整えている。また、感謝の気持ちを伝え、やりがいを感じて頂けるよう支援している。個人の趣味や習い事など、講師に來館してもらい楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に応える事ができない場合もあるが、季節に合わせた外出をしている。また、ご家族様の協力を得ながら毎年1月の初詣では県外へ出向き、5月には地域の祭りに参加している。	体操や日向ぼっこでの外気浴や周辺の散策も盛んですが、「出かける時には日頃行けない所に足を伸ばしたい」との意向から、初詣にはバスで豊川稲荷へ遠出をしています。御利益を願う長い参道を乗り切っています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が自己管理する事が難しく、使用する機会があまりないが、可能な方にはお金を所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて携帯電話を利用して頂いたり、電話や手紙のやり取りができるよう支援している。普段手紙を出す機会がない方にも、暑中見舞いと年賀状をご家族様宛に送るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が心地よく暮らせるよう、照明や温度を調整し、テーブルや椅子の配置を工夫している。季節の花や飾り付けをし、装飾なども工夫している。	バーベキューで盛り上がる日もある中庭は、プランターに並ぶ花と輪切りみかんが鮮やかで、安らぎの場所として鳥たちも訪れます。日中はリビングで過ごす人が多く、空気清浄機と加湿器を備え、乾燥に留意しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファセットを置き、廊下や玄関・玄関先にもベンチを設置して、いつでも誰でも使用できるようにしている。介助を要する方も、居心地の良い場所に居られるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具や寝具等は、ご家族様と相談し、できるだけご自宅で使い慣れた物を使用している。	寝室としての利用が主となっていて、日中は必ず換気をしています。季節の衣替えは家族にお願いし、スッキリした空間にレクリエーションでの書道や絵画の力作が誇らしげに飾られています。時節を告げるカレンダーも暮らしの一部となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口ドアには一人ひとり違う色が使用されており、表札には名前と一緒に本人の写真を入れ、自室だと認識しやすいよう工夫している。また、和式トイレも設置されており、使用可能な方には使用して頂いている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277100588		
法人名	社会福祉法人慶成会		
事業所名	グループホーム花みずき(泉館)		
所在地	静岡県浜松市西区大山町2882番地		
自己評価作成日	平成27年1月27日	評価結果市町村受理日	平成27年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=227

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年2月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれた広い敷地にゆったりと配置された3棟の平屋造りの建物が、「グループホーム花みずき」です。入居された方が自由にのびのびと暮らしていただけるように、健康と安全に配慮した援助をご提供させていただいています。また、入居されている方と職員が共に生活を楽しみ、暖かい雰囲気大切にしています。入居されている方にとっても、そのご家族にとっても、のんびりと寛げる”別荘”という感じで利用していただけることを目指しています。更に、花みずきの南側に作った畑を利用して農作業を通じた地域交流を行うなど、立地環境の利点を活かして、地域社会との繋がりを大切にしたい”ホッとできる”施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東名浜松西ICから10分、静かな里山に佇む宿のように3棟が独立して建つ事業所です。巡る季節を知らせる山茶花、紅梅、ハナミズキといった花々に囲まれて今までの暮らしの延長線上にあり、訪れる人にもやすらぎが灯ります。本年はセンター方式を丁寧に学び、ケアプラン充実に向けシートの見直しを図りました。担当職員がプラン作成に直接携わり、着実な人材育成が進められています。のどかな光景の中にも運営への意識は高く、ユニット単位の予算編成で職員の声を活かしての取組みは、来年度からはさらに発展し自ら立てた予算での活動となり、まさに”全員参加経営、”が始動します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「やさしく、ゆったり、よりそって」という法人の理念の下に、グループホームの使命が果たせる様に経営方針を決め、管理者と職員が共通認識に立って実践につなげていけるように取り組んでいる。	法人クレドを経営会議、ケア会議に読み合わせています。3棟のユニットがそれぞれの運営に尽力し、職員主導でなく利用者個々の想いを汲み取る働きかけができていることに浸透と反映を感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の保育園、中学校、老人クラブとの定期的な交流の機会はあるが、日常的な交流は出来ていない。法人内の他の事業所とは日常的に連携を取り、利用者の交流に繋がっている。	民家の少ない立地条件ながら、事業所の畑を通じて老人クラブ、保育園との交流が進められています。植えつけのアドバイスや草取り、認知症講話で双方が往来し、芋堀りには年長児を招いての歌の披露と肩たたきに利用者の笑顔も満開に綻ぶ一日となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の湖東中学校が行う職場体験学習で来られた生徒に対して、認知症の人の理解や支援の方法について学んで頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には近隣のグループホーム管理者やクリストファー大学の先生にも参加して頂き、年間計画を立てて定期的に開催している。また、利用者の日常の様子を毎回スライド上映で伝え、話し合いを行っている。	定期開催し、同業者や専門分野有識者も同席する中、実地指導の指摘事項についての情報交換や、各事業所が抱える課題を協議する場としてネットワークづくりやサービスの質を向上させていく会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の委員として区役所の職員と介護相談員に参加していただき連携を取っている。また、浜松市介護サービス事業者連絡協議会の理事として、浜松市との連携を取っている。	定期開催し、同業者や専門分野有識者も同席する中、実地指導の指摘事項についての情報交換や、各事業所が抱える課題を協議する場としてネットワークづくりやサービスの質を向上させていく会議となっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除に関するマニュアルを置き、研修への参加の機会を作り、職員への教育を行っている。また、ケア会議等を通して身体拘束が行われないように注意してケアに取り組んでいる。	入職時にオリエンテーションで身体拘束、虐待について説明しています。現在拘束が必要な利用者もありません。玄関チャイムの設置はありますが鍵のない自由な暮らしを守り、外出したい気持ちには寄り添うよう努め、余裕をもって接することができる時間を捻出しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新規採用職員へのオリエンテーションの中で「高齢者虐待防止法」についての教育を毎回行っている。また、法人内外の研修に参加することを通して継続的に学ぶ機会を持ち、日々のケアの中で防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での職員研修に参加することにより、権利擁護に関して学ぶ機会を作っている。また、既に成年後見制度を利用している利用者が複数いるため、日々の支援を通して学びを得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約に関する説明を十分に行い、途中においても質問には丁寧に答えている。また、制度等の内容が変わった時には、年2回の家族会等を通して十分に説明し納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回行う家族会では、毎回ご意見やご要望を聞き運営に反映させている。また、運営推進会議へ委員として家族代表に参加していただいたり、家族面談等の場を使って積極的にご意見を聞くように努めている。	運営推進会議には輪番で出席を得られています。「ちょっと出て青空を眺められたら」との提案から、歩行に不安な人への配慮として中庭に手すりの取付けを計画しています。家族会は初詣と七夕行事と一緒に過ごす日と報告・懇談会とに分け、年4回おこなわれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議やマネジメント会議を通して職員の意見や提案を聞くと共に、職員個別面談や意向調査等を通して積極的に意見を聞く機会を作っている。また、法人内ではアメンバー経営により職員の意見が法人経営に反映されている。	ケア会議での進言をマネジメント会議において管理者、リーダーが総括しています。半期ごとの個人面談、トップに直接届くダイレクトアンケートもあります。予算編成をユニット単位として、職員の要望が活かされ目指すケアに投資できる仕組みがあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課の評価と個別面談を行い、更に年1回職員の意向調査を行うことにより、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体研修として毎月1回職員研修を行うと共に、事業所毎では積極的に法人外の研修参加の機会を作っている。また、法人として職員のキャリアアップ研修を毎年実施したり、介護福祉士取得のための支援にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が、浜松市介護サービス事業者連絡協議会と県グループホーム連絡協議会の理事を務めていることもあり、同業者と交流する機会を積極的に企画し、職員に参加を促している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前面接に伺い、本人に会って話をし不安な事や困っている事などを聴くようにしている。入所後は事前情報を基に、本人の様子や言動に気を配り、声かけをしながら関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の相談及び入所面接や入所手続き時などに、家族の要望や不安に思っていること等をしっかりと聴き信頼関係に努めている。また、入所後も近況報告や家族面談を通して信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内事業所が連携を取りながら総合的に地域のニーズに応える体制をとっているため、相談の段階でその時に必要なサービスの利用が出来るように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意な事や昔から行ってきていた家事を無理せず出来る範囲で持っている力を発揮していただき職員と楽しみながら出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面接時に最近の生活や健康の状態報告を行い、必要に応じた電話報告もしている。家族への連絡を密にすることで家族が相談しやすい環境作りを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、外泊等を自由にしていただき、家族や馴染みの知人の訪問も心おきなく来ていただけるようにしている。電話の取り次ぎや年賀状の作成など馴染みの関係が継続できるよう支援している。	入居時には「別荘のように利用してほしい」と説明し、外出外泊が自由であることを伝えていきます。好きな縫い物に集中できる環境を整え、作品販売できるほど張合いを高める支援が継続されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等を利用して全員が顔を合わせて楽しめる機会を設けて入居者同士が上手く関わられるように、必要に応じて職員が間に入り関わりの支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、移られた先の施設と情報交換を行ったり、様子を見に行くなどしている。必要に応じて家族の相談や要望を聞き、経過をフォローするように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中での会話、行動から入居者が希望している生活や要望を把握するように努めている。困難な場合でも言動から思いを汲み取り職員間で検討、共有している。	センター方式シートをツールとして情報収集し、家族にも書き込みを協力してもらっています。自分の意思が伝えられる人が多い中、感情の起伏や状態把握に役立っています。困難な場合には言葉や行動の解釈を家族にも委ねて検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の時に家族にセンター方式のアセスメントを書いていただき、その情報を日々のケアに活かしている。また、折に触れて本人や家族から話を聞き、その人を理解するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックで身体の状態を記録している。日常のケア、活動内容の様子を記録、申し送りをして変化や発見を職員間で情報共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医師、看護師等の意見を聞き必要に応じて話し合いを行い、それらに基づいて介護計画を作成している。新たなニーズや変更があった場合も各関係者の意見を参考にしている。	ケアマネージャー指導の下担当職員がケアプランを作成し、これに基づき全職員で話合っています。シートをA4サイズからA3に拡大し、第2表には新たに評価欄を設けてモニタリングシートとADLチェック表を付加し、PDCAサイクルを意識づけています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者に対する日々のケアの様子や気付いた事等を日誌や個別記録、申し送りノートに記入して職員間で情報の共有をしている。また、ケア会議等で介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者それぞれの意思を尊重して食事の準備や片付けを一緒に行っている。入居者の食べたい物を聞いて食事レクをしたり、外食の機会を作って食事が楽しみとなるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会のボランティア、保育園児との交流で日常生活に新しく楽しみができています。法人内の演奏会や舞踊会、地域の施設の夏まつりに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望により、掛かり付け医師が月2回の定期往診と必要に応じて臨時往診に來られ、その都度指示をもらっている。また、必要に応じて専門の病院にも受診している。	月2回往診があり、夜間でも駆けつけてもらえるため全員が協力医に変更しています。精神状態の変化を記録した24時間生活変化シートから職員が同行のうえ主治医の意見を直接聞くこともあります。家族に受診の付き添いをお願いする際にはバイタルや生活記録を書面で手渡しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に利用者の状態報告や相談をし、必要に応じて受診や医師への連絡、指示を仰ぎ適切な対応がとれるよう24時間相談体制がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には介護サマリーを提供し生活状況などを詳しく伝えている。入院中のお見舞いに伺い入居者、家族が安心して療養出来る言葉かけや家族や病院関係者との情報交換や相談に努めスムーズな退院、帰所後の適切なケアに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況の変化に応じて、早い段階からかかりつけ医師、看護師との連携を取り、家族の意向の確認や協力要請の話し合いを行っている。その結果により方針を定めて職員間で意思の共有を図っている。	事業所で出来ることに限界はありますが、看護師は24時間オンコール体制にあり医師からの説明をもってターミナルケアに取り組んでいます。一人介助での立位や一般浴での入浴が困難になった場合は早い段階で相談の機会をもっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身体状況の変化に応じて、早い段階からかかりつけ医師、看護師との連携を取り、家族の意向の確認や協力要請の話し合いを行っている。その結果により方針を定めて職員間で意思の共有を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の火災を想定した避難訓練を年3回実施すると共に、風水害対応マニュアルを作成し職員教育を行っている。また、法人で行う災害対策の研修に参加しているが、地域との協力体制までは築けていない。	年に3回、各館交代で夜間想定として実施し、本年は行政指導に従って風水害対応マニュアルを備えました。火災においては火元を乾燥機に限定していましたが、消防署職員のアドバイスからコンセントからの出火も加味しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳と人格を尊重して適切な言葉で丁寧に優しく声かけするよう心がけている。	本人がつらくなるような話は情報としてあらかじめ了解して接し、生活背景や気持ちを重視した声かけを促しています。「排泄の誘いは耳元で小声で」「失敗には集団から離れた場所で」「無理強いを尊厳を傷つける」として気になることは職員同士注意し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が思いや希望を言いやすい環境を作り、なんでも話せるような信頼関係を築くよう努めている。また、希望が言いやすいような問いかけを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人、一人に対しその人のペースや希望を大切にしている。ADL低下や認知症の重度化などで要望等表現が難しくなってきたり、出来るだけその希望が叶えられるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者と一緒に楽しみながら季節に合った服を選び、「良く似合う、素敵」などの声かけをしてお洒落を楽しんでいる。また、毎朝スキンケアをする入居者の支援、外出時のお化粧の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者それぞれの意思を尊重して食事の準備や片付けを一緒に行っている。入居者の食べたい物を聞いて食事レクをしたり、外食の機会を作って食事が楽しみとなるよう努めている。	ご飯はユニットで焚いて、副食はセントラルキッチンからの調理品を盛り付けています。普通食、ソフト食、ミキサー食と個々に合った形態で提供し行事食やおやつを手作りしています。下膳して洗い物を担当する利用者に日常光景を垣間見ました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量、水分量を記録し身体状況に応じた量の調節や食事形態を変えている。バランス良く盛り付けて楽しみながら美味しく食事が出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者その人の力に応じた口腔ケアを行い、磨き残しが無いように職員が確認している。また、月1回の歯科衛生指導と必要に応じた受診、薬剤による定期的な義歯洗浄を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄のパターンを記録し把握した上でさりげない声かけや誘導を行っている。その際にもプライドを傷つけないよう声かけの工夫をしている。なるべく布パンツで生活出来るよう時間をみてトイレ誘導をしている。	寝たままの援助を良しとせず、今の力をできるだけ長く維持できる方法を考えトイレでの排泄としています。紙パンツが蒸れることもあって皮膚疾患が気になる人には布パンツとパッドで対応しています。夜間は吸収容量の多いパッドを使用し安眠優先とする人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のレクや体操などできるだけ体を動かすようにしている。牛乳や食物繊維を摂るなどの工夫をしてなるべく自然排便が出来るように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後から夕方にかけて利用者の気持ちが不安定になりやすいため、毎日午前中に入浴をすませ午後には職員と一緒に活動することが多い。夜間浴への移行は実施出来ない。	夕方落ち着きがなくなる人が安心できる環境を整えるため午前中の中入浴としています。頻回な入浴を拒む人には、受診日に充てたり浴剤を張った湯で期待感を高めるなど様子を見ながら本人の気持ちに添っています。また、足がむくみやすい人には午後の足浴を加えています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時の状況に応じて就寝していただいている。居室の温度、湿度、照明の調節等の環境を整えている。また定期的な布団干し、シーツ洗濯をして気持ち良く眠れるよう支援して、日中はなるべく活動的に過ごすよう心がけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の往診時に薬剤師が付き添っており入居者一人、一人の配薬をしている。職員は処方薬を把握し誤って服用しないよう薬カードで確認している。また、用法、用量、副作用等の理解が出来るよう一人、一人の服薬ファイルを作っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事、趣味、買い物、散歩など楽しみや気分転換になることを日常積極的に取り入れる事で生活のハリになるよう努めている。また、家族との外出や外泊も大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望を聞きドライブや買い物など出掛ける機会を多く作るようにしている。また、家族にも協力していただき、できるだけ本人の希望が叶えられるように努めている。	毎日僅かな時間でも事業所周辺を散策し、歩行困難な利用者も車いすで戸外の風に触れ、四季の移ろいを感じる事ができています。遠出は少ないものの、気分転換としてドライブは日常的な取り組みがあり、うなぎパイ工場見学も好評でした。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の小遣いの管理は職員がしているが、買い物や外出先での支払いの希望に応じて本人が支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状や暑中見舞いが出せるように支援している。また、利用者からの希望に応じて電話を掛ける支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内に利用者の混乱を招く様な物が無いように環境を整え、常に清掃をして清潔に努めている。季節を感じられる花や飾りつけをして家庭的な雰囲気の中で心地良く過ごしていただけるよう努めている。	築13年を経て老朽化した共用スペースの修繕と整備を順次進め、本年は泉館、葵館の脱衣所の床を張替えています。暖かい日には中庭にテーブルを運んでお茶を片手に談笑する日もありません。和室の段飾りが出番を待つばかりとなりました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の椅子や玄関先と中庭のベンチ、居間の掘ごたつ等を配置し、居場所作りの工夫をしている。また、利用者がそれぞれ思い思いに過ごせる様に支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の利用については特に制限をしていない。入居者、家族の希望に応じた居室作りが可能となっている。それぞれの居室には馴染みの物や家具が置かれ、居心地の良い空間が作られている。	住み慣れた自宅から環境が変わるため筆筒やベッドなど馴染みの物を持ってきてほしいと伝えてあります。絨毯を敷いたり、絵手紙を飾る人、離れて暮らしても身近に感じられる家族の写真と一緒に寝ていた人形が持ち込まれ、その人らしい居室を視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が少しでも自立した生活が出来るように、トイレや居室入口には分かりやすい様に表示をしている。また、職員が身近で気配り、目配り、声かけをして自立した生活が安全に送れるように努めている。		